

【学校教育目標】知・徳・体の調和がとれ、主体的・協働的に行動できる子どもの育成



# 学校だより

鈴鹿市立愛宕小学校

令和7年3月10日

No. 31



## 第6回学校運営協議会を行いました(2月26日)

～委員の皆様、1年間本当にありがとうございました～

今年度、最後の学校運営協議会です。委員の皆様にはこの日行いました6年生を送る会も参観いただいた後に、協議に入りました。主な議題は、今年度の学校の様々な取組の成果と課題に対して、委員の皆様からいただいたご意見をもとに、次年度に向けて提案した改善点について協議しました。これにつきましては、「令和6年度学校関係者評価書」として、年度末にホームページに掲載する予定です。協議の中で様々なご意見をいただきました。主なものを紹介させていただきます。

委員の皆様には、1年間学校運営に関わり忌憚のない建設的なご意見を賜り、有難く思います。本当にありがとうございました。

### ○ 学校の様子に関して

・ 本日の六年生を送る会では、どの学年も頑張っていた。送る会終了後、1年生教室を覗くと、何人かの子が6年生と別れることがさみしくて泣いていた。それだけ1年生と6年生のつながりがあったのだと感じた。

### ○ 津波避難・引き渡し訓練に関して

・ 津波避難訓練時の避難ルートについて、前回の本協議会でも「震災時、電車が線路上で止まってしまった場合、どのような迂回ルートを考えるのか」等について話し合ったが、これについての検討が必要だ。

・ 避難ルートについては、以前に話題が上がったように、アンダーパスを通ることも含め状況に応じたルートを想定しておくことは必要である。避難訓練ではなく、校外学習等の機会に、アンダーパスを通り、子どもたちと避難ルートの確認をするというのも一つの方法であろう。

→ 保護者・地域の方々とも相談し、職員による避難ルートの検討、確認を行う。

### ○ 職員の働き方改革に関して

・ 時間外勤務をしなければならない教員がいる。どのような業務で時間外勤務をしているのか。まだまだ時間外勤務は減らせるかと思う。もっと分担できるところもあるのではないだろうか。来年度に向けて取組が必要であろう。

→ 時間外勤務は、授業準備・行事準備等が主である。授業時数が確保できている現状を踏まえ、各学期の給食開始日を4限授業にし、学期始めの準備時間を確保する等の取組をすすめているところである。今後も、仕事分担を適切に行い、特に問題事案等は、一人の教員に抱え込ませることなく、学校として組織的に対応していく。

・時間外勤務を減らすには、学校だけの取組では難しい面がある。根本的には、制度として、学級の在籍児童数を減らすことが必要であろう。

・何よりも先生たちが意欲的に働けることが大事であろう。

→よりよい行事や活動にしようと、労力をかけすぎてしまうところはないか。目的をしっかりとって、どこまで取り組むのか考えることは必要である。

→令和7年度より、勤務時間外の地区補導はしないという方針が鈴鹿市教育委員会から出されましたことも、ご承知おきください。

### ○安全安心(見守り)ボランティアの募集に関して

・若い方が見守りボランティアに加入していただいた。お会いしたら、お礼を伝えてください。自ら、募集看板をみて、お電話いただきました。



### ◆第3回学校保健委員会(3月4日)

今年度、最後の学校保健委員会を行いました。メンバーは、学校医(駒田内科 駒田先生)、歯科医(千代崎歯科 北川先生)、薬剤師(白子ウイメンズホスピタル 武内先生)、学校運営協議会委員長(大橋様)、学校側(校長・教頭・養護教諭)です。



養護教諭より、児童の身体測定結果、各種健診結果とその治療状況、保健室の利用状況等を説明しました。それを受けて、学校三師の方々から心身の健康や発達に関するご助言をいただきました。主なものを紹介させていただきます。

○怪我の場所の定期的なチェックは重要である。原因を把握し、対策につなげることができる。

○児童の「しんどい」という訴えにも、午前・午後によって様々な捉え方ができる。一般的な身体疾患であれば、午後がしんどくなるが・・・。

→児童には、「授業が受けられるか?」「朝食を食べたか?」「何時に寝たか?」等を聞き、様子をみている。

○心身ともに心配な児童の様子が見られた場合は、保護者の方と連携し、子どもの様子について共通理解を図り、早期に適切な指導・対応を行うことが重要である。

○現在、インフルエンザは落ち着いている状況(比較的軽症)ではある。コロナは無症状で本人も気づかないケースがある。

### ◆6年生 千代崎中・鼓ヶ浦中の先生による出前授業(3月7日)



【鼓ヶ浦中】



【千代崎中】

例年、卒業前のこの時期に、行っています。中学校の先生方からの子どもたちへの温かく力強い生のメッセージは、進学への不安が和らぎ、期待が膨らみます。子どもたちも真剣にお話を聞いていました。